

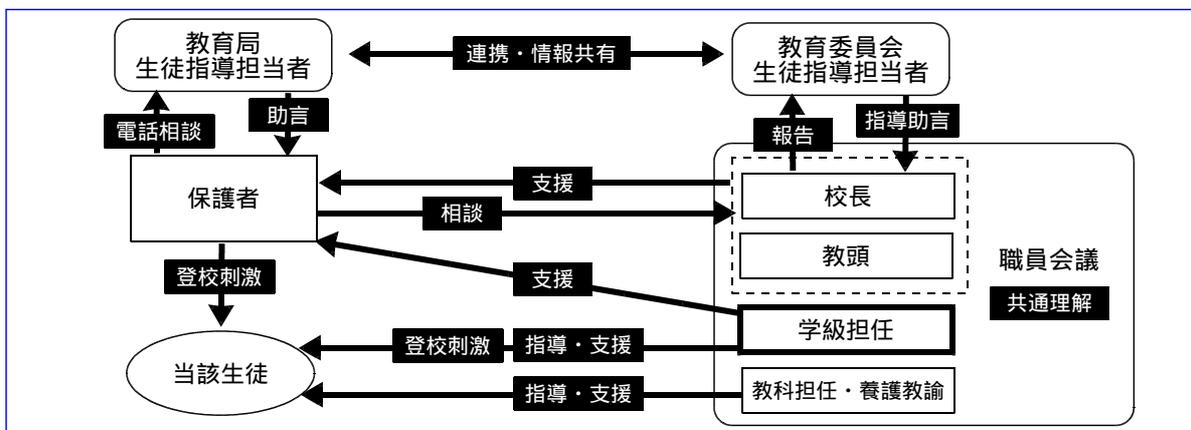
不登校児童生徒への対応事例 9（中学校第 2 学年男子）

～ 関係機関との連携による対応 ～

問題の把握

10月中旬、当該生徒は、菓子を学校に持ってきたことについて学級担任から指導されたことをきっかけに、欠席し始めた。2日後、学級担任が家庭訪問を行ったが、保護者には学校の指導方法に対する不信感があり、当該生徒の登校に向けた理解と協力を得ることができなかった。その後、毎週、学級担任が家庭訪問を行ったが、当該生徒の欠席が続いた。

対応状況



- 10月中旬 毎週、学級担任が家庭訪問を行ったが、保護者の理解を得られなかった。
- 10月下旬 教頭が家庭訪問を行い、保護者及び当該生徒と不登校の解消に向けて話し合った。
- 11月上旬 学級担任が家庭訪問を行い、保護者及び当該生徒と不登校の解消に向けて話し合った。
- 11月中旬 保護者が教育局の相談電話に、当該生徒の状況及び学校の対応について相談があり、教育局担当者から保護者に、学校の取組を理解し、協力するよう助言した。相談電話の内容について、教育局と教育委員会で情報共有するとともに、学校に対しては、保護者へ積極的な働きかけをするよう指導助言した。校長、学級担任が家庭訪問を行い、当該生徒の登校に関わる保護者の要望等を把握するとともに、学校としてできる限りの配慮をすることを伝えた。職員会議において、校長は当該生徒及び保護者の状況を説明し、全教職員が協力して受け入れ体制を整えるよう指示した。
- 11月下旬 当該生徒は登校するようになり、全教職員が協力して当該生徒の様子を見守るとともに、放課後等に欠席期間の学習面のサポート等を行った。

不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・校長が指導方針を明確に示し、全教職員が共通理解を図って対応すること。
- ・当該生徒及び保護者の状況や願いについて、早期に把握すること。
- ・関係機関と連携して情報を共有し、対応策を検討すること。
- ・学校、保護者、関係機関の役割を明確にして、それぞれの役割を果たすこと。